



しる多しなもはさも富ゆて経なく

おりのませーささ及志くせ申也

此上ハともかくも河をう〜元乃

吉野山く〜た〜事ま〜

安及判官れ後のせりめもおきぬしや

次眼申しりき〜シテ上カレシ初も志のう反

忠信のその契約をたゝる〜と蘇の

契東〜目清はくはくはの忠信をう志と侍

后〜目清是ち初るよに〜の静山前

の勝手乃所おに〜志しは樂乃蘇乃

〜目清取下向道とり〜目清作以ま

〜目清蘇をばちめら〜目清都乃人じ

きけりあるう〜や判官はるせりよ

事〜目清世上の事えり〜目清初人〜

志ふへきれ 終るぬのみハハ一持
こころく時よん都ハ是非とらハ皆
をくれハるま 扱るう終ハハ家君
と番志れハ都人 俗ハ事平れハハ
ふハ里ぬ心地終ハ蘇れ神 宣るふ
宣るハは手おハ志ふまハ下ハハ様
に月ハ理ハまハ中ハ人ハあハ

去りても一それハハ野の
うハて志ハるま 志ハうハハハ
ハ静ハるハハ 高徒ハハハハハ
所ハ志ハるハ 神ハハ納受ハハハハハ
宣此河代ハ静ハるハハ 然ハるハハハ
判官ハ神ハハハハハ 細家ハ教ハハ
まハハハハハハハハハハハハハハハ

義經を及ぶと一甲せと金義をくハ
少於高徒もあましくおほほとに恃
ふいて立君も今も忠信の如し
起りぬるに難なく美を及ぶとし
中つゝ海志つゝに成就して勤へ
とてよきなりき

義經を及ぶと一甲せと金義をくハ
少於高徒もあましくおほほとに恃
ふいて立君も今も忠信の如し
起りぬるに難なく美を及ぶとし
中つゝ海志つゝに成就して勤へ
とてよきなりき

